JWT

タッチケアの実践を通して

「手のひらから笑顔へ」
～私たちはタッチケアを通して良好な人間関係を築き、虐待のない幸福な福祉を目指します～

征峯会
SEIHOUKAI

タッチケアを始めた背景

第三種郵便物認可　A版　第2社会　(24)

神奈川県立施設

障害者虐待、幹部が隠蔽

暴行、文書に虚偽記載

入所者への多数の虐待疑いが明らかになっている神奈川県立の知的障害者施設「中井やまゆり園」（同県中井町）で昨年、職員が入所者に暴行を加える場面が施設内のカメラに写っていたのに、幹部職員らが虐待の通報をせず、隠蔽していたことが31日、共同通信が入手した映像や内部資料で分かった。実際には殴っていたにもかかわらず、記録文書には「手で強く押した」などと虚偽の記載をしていた。

県は既に県警にも届けており、関係職員を処分する方針。同園では、これまでにも「職員の暴力による骨折を事故として処理した」との指摘や、約90件の虐待疑いが出ている。県は今年3月に外部調査委員会を設置。暴行の映像や隠蔽の経緯は調査委も把握しており、近くまとめる報告書に盛り込まれる見通しだ。

映像は2件あり、時期はいずれも昨年9月。男性職員2人がそれぞれ別の日に同一の40代男性入所者に暴行を加えていた。うち1件では、座り込む入所者を荷物運搬用の台車に乗せた後、かみつかれた職員が2回、顔を殴る場面が写っていた。

もう1件では、床に座って窓を蹴っていた入所者を制止しようと、別の職員が横から入所者の足を蹴っていた。

この入所者に関する「生活記録」では、1件目の発生日に暴行前後の状況が記されていたが、「頬を平手で強く押した」「（顔のあたりは）台車か壁や床にぶつかってできたと推測される」との記載になっていた。

障害者虐待防止法では、虐待の疑いに気付いた人は自治体に通報する義務があるが、寮長と上司の担当課長（当時）は映像を見たのに通報せず、家族にも事実を伝えていなかったという。

県は同園の虐待防止策としてカメラの増設を進めているが、証拠が残っていても幹部が隠蔽していたことが明らかになり、対策の見直しも求められそうだ。

神奈川県立「中井やまゆり園」で、男性入所者（右から2人目）を殴る職員（右端）＝2021年9月（施設内のカメラ映像より。画像の一部を加工しています）

無許可建築撤去せず 容疑の会社役員逮捕

県警

牛久署と県警生活環境課は31日、都市計画法違反（除去命令）と廃棄物処理法違反（改善命令）、建設リサイクル法違反（無登録解体）の疑いで、つくば市桜が丘、

第三種郵便物認可　産

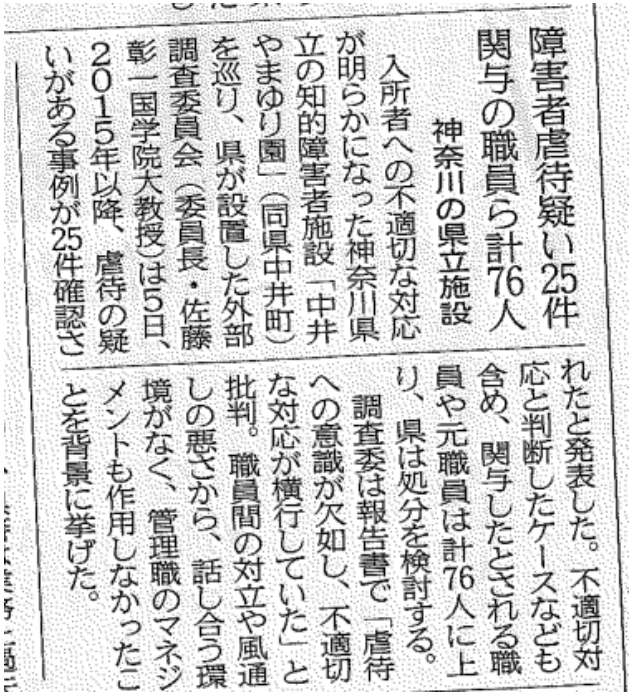
障害者ほぼ終日施錠

埼玉、新潟、広島、兵庫 公立施設、10年継続も

埼玉、新潟、広島、兵庫各県の公的な知的障害者施設で、一部の入所者を1日20時間以上、外側から施錠した部屋に閉じ込める対応が常態化していることが23日、共同通信の全国調査で分かった。いずれも県立施設や県の外郭団体である社会福祉事業団の運営施設。広島では24時間施錠という人がいるほか、埼玉、新潟、兵庫では長時間の施錠が10年以上続いている例が見られた。

「強度の行動障害のため自傷や他害行為があり、安全面からやむを得ない」などと説明しているが、障害福祉の関係者からは「虐待に当たる」との批判が出ている。

県立の障害者施設を巡っては、神奈川県で入所者を1日20時間以上、施錠していたことが昨年9月に表面化。共同通信はこれを受け、都道府県立や、都道府県の福祉関係の事業団が運営する知的障害者の入所施設を対象に、主に昨年10～12月の身体拘束の状況を取材や情報公開請求で調べ



障害者虐待疑い25件

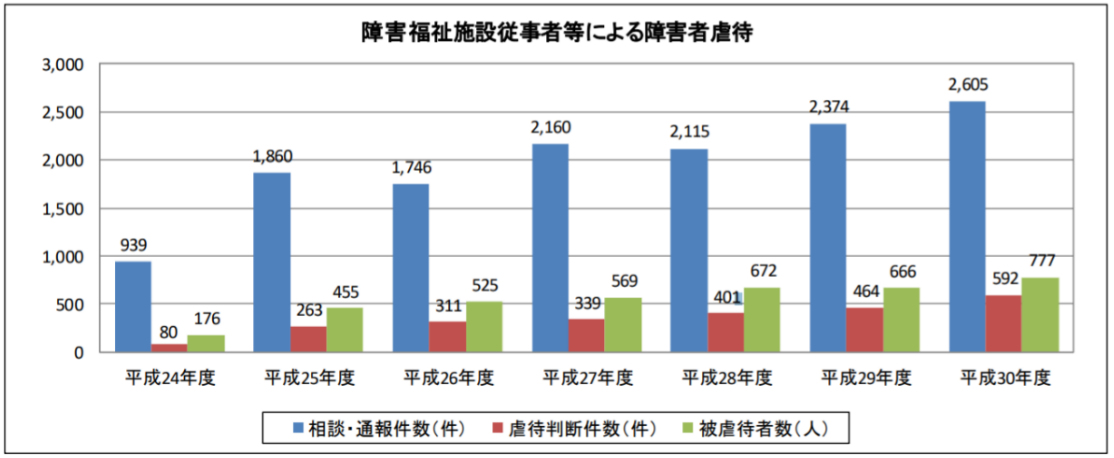
関与の職員ら計76人

神奈川の県立施設

入所者への不適切な対応が明らかになった神奈川県立の知的障害者施設「中井やまゆり園」（同県中井町）を巡り、県が設置した外部調査委員会（委員長・佐藤彰一国学院大教授）は5日、2015年以降、虐待の疑いがある事例が25件確認されたと発表した。不適切対応と判断したケースなども含め、関与したとされる職員や元職員は計76人に上り、県は処分を検討する。

調査委は報告書で「虐待への意識が欠如し、不適切な対応が横行していた」と批判。職員間の対立や風通しの悪さから、話し合う環境がなく、管理職のマネジメントも作用しなかったことを背景に挙げた。

障害福祉従事者	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
相談・通報件数（件）	939	1,860	1,746	2,160	2,115	2,374	2,605
虐待判断件数（件）	80	263	311	339	401	464	592
被虐待者数（人）	176	455	525	569	672	666	777



＊　平成24年度は下半期のみのデータ

増え続ける 虐待件数

タッチケアを始めた背景

福祉の現場で働く人は

「人の役に立ちたい…」

と思っている人がほとんど。

しかし実際は…

人材・専門的研修の不足などにより現場の支援環境が疲弊しており、支援者のちょっとしたイライラなども虐待の温床になりかねない…

征峯会
SEIHOUKAI

タッチケアを始めた背景

①支援者と利用者様の人間関係をよくしたい

②障害福祉の現場から虐待をなくすために
私達ができることは何か？

福祉の携わるものとして職員への専門的教育・研修以外でなにかいい方法はないかと模索していた

職員の職場環境を整えるのは管理者の役目

人の役に立ちたいと思って入職した職員さんを正しく導くこと

タッチケアを始めた背景

私が長年感じていたこと

「今まで成人の障害をお持ちの利用者さんは人から触れられる機会が圧倒的に少なかった」

「思えば大人になるにつれライフサイクルの中で利用者さんが他者とふれあう機会はどんどん失われていったのかもしれない」

「いまさらだが利用者さんは人とのふれあいをたくさん求めていることに気が付くことができた」

「これは障害者だけでなく、子供も高齢者も同じであると考えた」（自分自身もそうであると感じた）

＜協会顧問桜美林大学山口教授の話＞

- 「手当て」は医療の原点

  「皮膚は露出した脳」と言われ古来より人々は手を患部に当てることで、痛みを和らげてきた。

  (自然治癒力を高めてきた)

- ロイヤルタッチとプラシーボ効果

  中世欧米の皇帝が患者に触れることで患者を多く治したという。プラシーボ効果(偽薬効果)と言われる。

（一社）日本福祉タッチケア協会(JWT)
の立ち上げ（2021年8月）

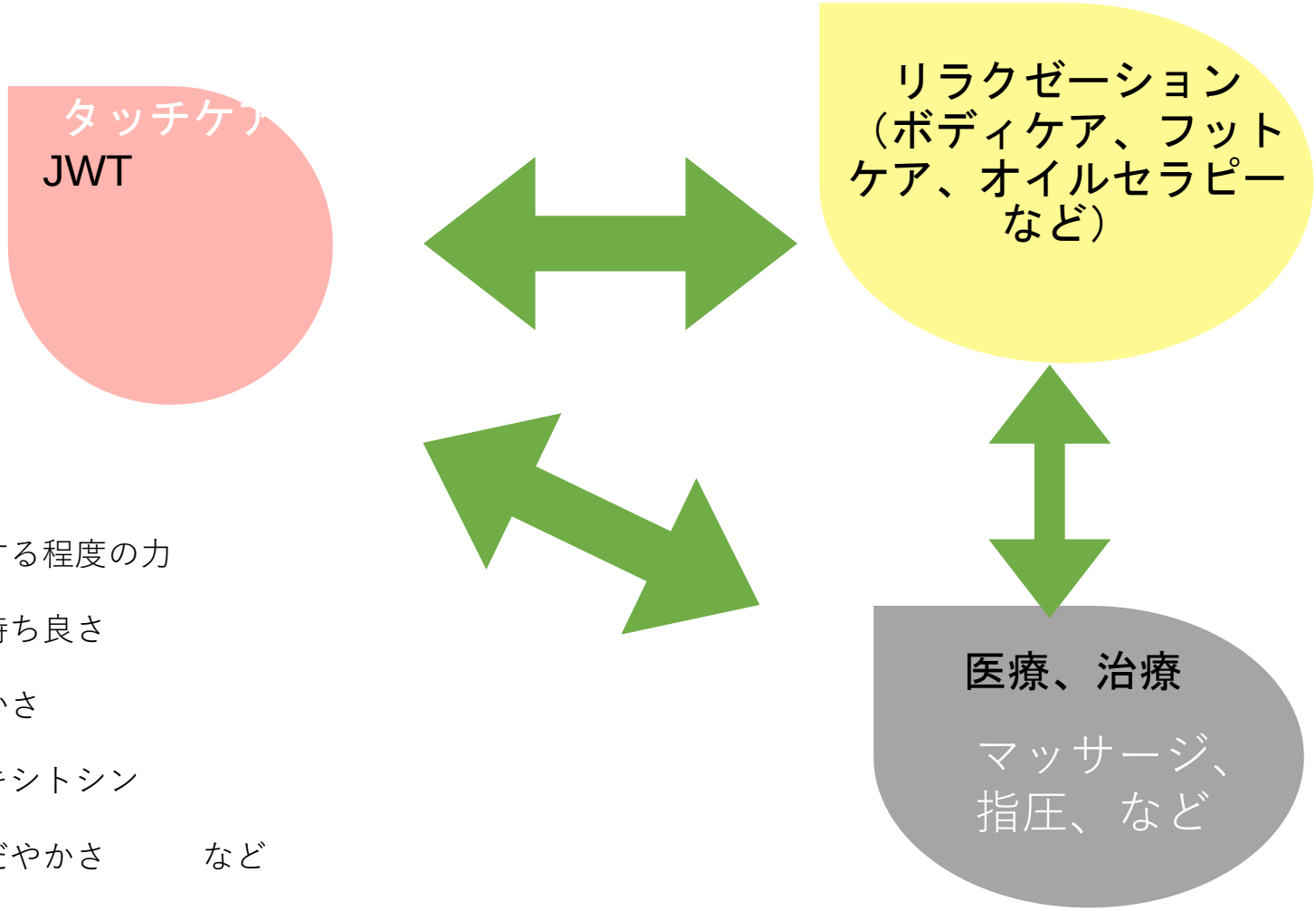
make a relaxation and human property
株式会社エーワン東京

×

征峯会
SEIHOUKAI

タッチケアとは「触れるケア」の総称です。「治療（CURE）」目的ではなく、「ケア（CARE）」や「癒し」として、看護・介護での新たな対人援助のケア方法の確立・普及を目指し（株）エーワン東京様と共同で立ち上げます。

JWTタッチケアとリラクゼーションとマッサージの違い



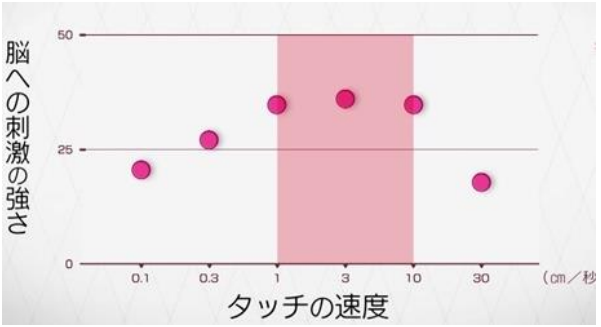
- さする程度の力
- 気持ち良さ
- 温かさ
- オキシトシン
- おだやかさ　　など

＜オキシトシン～心地よくなる物質～＞

- オキシトシンは、

脳下垂体後葉ホルモンの一種。

接触によって分泌され、血液を介して身体中に広がります。
穏やかさと安心感をもたらし、接触をしている両者に分泌されます。



＜オキシトシン～心地よくなる物質～＞

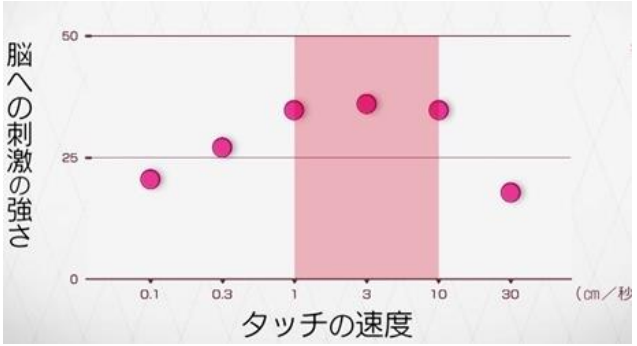
・「ドーパミン」「セロトニン」「オキシトシン」３つのハッピーホルモンと呼ばれる

- オキシトシンは、動物とスキンシップをとった際などもでる。猫と犬であれば…趣味への没頭や好きな歌を聴くなどでも分泌する。
- 愛する人と一緒にいる時。肌と肌のふれあい。
- 「周りを愛したい」「親密な関係を築きたい」という気持ちが増す

＜オキシトシン～心地よくなる物質～＞

- 秒速1センチから10センチの速度でタッチした時に、脳に心地よさを感じる刺激が強く伝わり、一般的に7分で分泌量が増加して10分で満ちてしばらく続くと言われている。

- 分泌量が増加すると皮膚の体表温度も上昇するので、温かさを感じ、温感もしばらく続く。



タッチケアを始めた背景

始めて話を聞いた際に感じたこと
「オキシトシンってなに？
ちょっと胡散臭いなあ…」
「利用者さんに受け入れられるのかなあ…」

正直に話すとはじめは導入に否定的でした
①騙されているのでは？
②利用者さんのためになるのだろうか？

タッチケアを始めた背景

自分で考えてみました。
利用者さんにはマッサージ的なものとして考えればいいのでは…実際に試験的に利用者さんに施術している様子や反応を見て、これはいけると確信しました

利用者さんは人とのふれあいの機会が圧倒的に少ない。コロナ禍になり、ご家族ともなかなか会えない寂しさを私達支援者で埋めることができるのではないか…

タッチケアの導入を決意

征峯会
SEIHOUKAI

JWTのタッチケア～職員研修～
令和3年1月～

エーワン東京のセラピストから指導を受けた施設支援員が実施。

マッサージと異なる点は揉むという行為ではなく、一定加重(500g)で手を当て、オキシトシンの分泌を促すことに主眼を置いている点である。

征峯会
SEIHOUKAI

障害者部門で本格的に導入
令和3年6月～

対象

- ピアしらとり、ヒラソル利用者様
- 特養しらとりデイサービス利用者様
- 征峯会職員

方法

① タッチケアの記録
② 支援者アンケート
③ 外部機関協力の実証実験

施術状況(令和3年6月～令和５年４月)

入力データ数

１７０００件以上のデータ

Googleフォームを使い
簡易に入力、まとめやすく

気付きの共有

個人、障害に合わせた施術

自閉症、精神疾患の方など
個人の特性に合わせた施術方法の確立

利用者様を知る

コミュニケーションツール

施術中の会話から利用者様を知り
良好な人間関係を築く

征峯会
SEIHOUKAI

支援者アンケート
～実施職員の手ごたえ・感想～

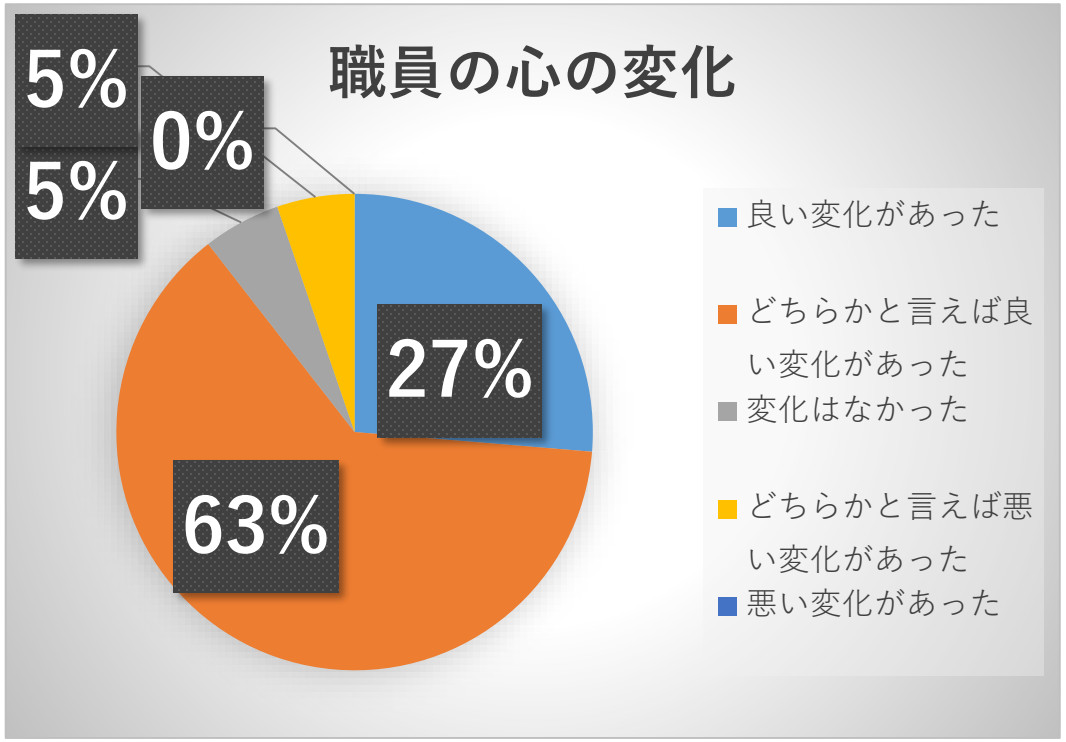
変　化

職員自身の心の変化

良い変化があった
どちらかと言えば良い変化があった
９０％

変化はなかった５％

どちらかと言えば悪い変化があった
悪い変化があった５％



・利用者様と密に関わる時間が増えた
・会話をして知らない内面を発見した

私(個人)の450回以上施術しての感想①

・タッチケアを始めてから利用者さん との関係性がよくなった(より親密性が増した)

・身体的にもオキシトシンの効果があると思うが、一番は利用者さんの家族から離れて暮らす寂しい心に対して支援者が寄り添うことで心が満たされているように感じる

・今まで支援者が触れることのなかった利用者さんに対して単純にリラクゼーション効果も見られ、喜ぶ方が多い

私(個人)の450回施術しての感想②

・職員が利用者さんのこと、その方の人生により興味を持ち、深く知ろうという姿勢が見られるようになった

・利用者さんの喜ぶ顔を見て、職員自身の自己肯定感(誰かのお役にたっているというやりがい)が高まった

・新人職員も利用者さんと関係性を築くのが早くなった

一番の効果は実は職員自身の心の変化(利用者さんを大切に思う気持ち)ではないかと感じている

「人の価値とは、その人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる」アインシュタイン

「利他の精神」稲盛和夫

最後に

タッチケアを広めるためには仲間が必要

　私はタッチケアの広がりがきっと障害福祉の支援現場を変えると信じています。そしてタッチケアは障害福祉の世界だけではなく、高齢分野や認知症のケアにも十分に応用が利くと思います。このタッチケアを全国に普及させることで利用者様と支援者の人間関係をよくすること、世の中の虐待をなくす一助となれるようにこれからも発信していきたいと思います。